

あわじ環境未来島特区 [指定：平成23年12月、認定：平成29年3月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 $(4.9 + 4.0) / 2 = 4.5$

4.5

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	エネルギー(電力)自給率	103%	5
2	二酸化炭素排出量	117%	5
3	再生可能エネルギー創出量	102%	5
4	竹燃料の消費量	146%	5
5	新規就農者数	104%	5
6	再生利用が可能な荒廃農地面積	116%	5
7	一戸当たり農業生産額<<代替指標>>	99%	4
8	持続人口(定住人口+交流人口)<<定性的評価>>	—	—

評価指標毎の進捗の評価の平均値 $(5 \times 6 + 4 \times 1 + 3 \times 0 + 2 \times 0 + 1 \times 0) / 7 = 4.9$

4.9

・1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
 (例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

4.0

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii)の平均値 $(3.8+3.3+5.0) \div 3 = 4.0$

4.0

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

3.8

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

3.3

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

5.0

III 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

4.3

・各評価項目における自己評価や地域独自の取り組み等の報告書の書きぶりから、並々ならぬ熱意が感じ取られた。新規計画の1年目に当たって全体的に順調な実施状況である。地域独自の取組については、相当活発であると評価できる。

・竹燃料の活用や荒廃地の減少など、特徴ある取り組みが成功している。ここでの成果が他地域にも広がることが期待される。

・新規就農者の増加は農家子弟のUターンをベースとする方針でよいと考える。淡路島の農家は園芸作でかなりの所得をあげているので、この専業農家の厚みを維持することを基本とするのがよいだろう。園芸作は労働力が必要であり、経営面積は簡単には拡大はできないので、抜けていった専業農家の後に新規参入者に入ってもらうということになるように思う。

・再生利用が可能な荒廃農地面積については、既に最終年度実績を超えているため目標の再設定も考慮すべき。荒廃状態が長く続いた結果、再生利用が難しくなった元農地は、カウントから外れる可能性がある。分析はある程度細かく行われているが、評価書の数値も全容を説明しきれていない。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

4.3

総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算 $(4.5+4.0+4.3 \times 2) \div 4 = 4.3$

4.3

(注) 評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

・評価は5～1(評点)で行う。

・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。

・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。